

岡田貴富（監），松本政悦，他（編）

地域で働く作業療法士に役立つ 発達分野のコンサルテーションスキル

高 畑 脩 平
（白鳳短期大学，作業療法士）



本書は，地域の学校や園でコンサルテーション支援を行う（行いたい）OT や関連職種に向けて書かれた書籍である。4 章構成になっており，第 1 章「事例—失敗編」，第 2 章「セラピストのためのコンサルテーション」，第 3 章「事例—解決編」，第 4 章「座談会」と展開されている。

第 1 章の「事例—失敗編」では，園や学校でのコンサルテーション支援における 14 の失敗事例が示されている。地域の園や学校へ訪問したことがある OT であれば，どの事例も経験することが多く，身近に感じられる内容である。また，失敗事例に登場する OT も「熱井さん（熱い思いをもちすぎて突っ走るタイプ）」と「柔井さん（人当たりが柔らかい一方で優柔不断なタイプ）」の 2 タイプあり，OT の特性によって引き起こしやすい状況も示されている。

第 2 章の「セラピストのためのコンサルテーション」では，OT が地域の園や学校に訪問する際に必要な知識や技術，評価や提案のポイントが体系的に説明されており，地域に訪問する OT にとっては心強いバイブルになると感じる。具体的には，訪問前に確認すべきこととして，①自分は何者か（どんな立ち位置で訪問しているのか）を把握する，②相手施設の運営母体，活動内容，周辺地域を

知ることについて記載されている。また，訪問時に早い段階で把握すべきこととして，①組織の特徴，②指示系統，③キーパーソン等が挙げられている。たとえば，校長室や園長室で挨拶をし，お茶によべながら 1 日のスケジュール確認を行う一場面をとっても，校長や園長の他の先生へのかかわり方，特別支援に対する熱の入れ方などの情報収集ができ，後に支援策を提案する際に，誰にどのようなことを投げかけるべきかの判断材料となる。次に，実際に対象児への支援における「主訴の聞き取り—行動観察—対応策の提案」に関して，密度の濃い内容が記載されている。たとえば，行動観察の小項目として，①環境一般の把握（クラス全体の評価），②対応状況の把握，③行動の把握，④作業環境の分析，の視点から説明されている。これらを拝読していると，作業遂行における「人—環境—作業」の視点の秀逸さと，作業療法の懐の深さを感じる。特に，コンサルテーション支援における特徴は「環境」の評価であり，対象児を取り巻く人的環境（子ども/大人の数，特性等）や物理的環境（クラスの座席配置，構造化の傾向，掲示物等）は多次元的で，広い視野が必要であると感じる。本書でもそれぞれの評価の視点が具体的に紹介されている。

第 3 章の「事例—解決編」では，第 1 章で紹介された 14 の失敗事例に対して，登場人物である偉井さん（コンサルテーションの経験豊かな OT）が解決していく内容になっている。ここでは，第 2 章で得た知識を実践的に応用しているため，理論と実践の結びつきを学べる内容になっている。また，偉井さんと担任との会話のやり取りの中に「心の声」が出てくる。これは経験豊富な OT の頭の中をのぞき，表には出てこない思考過程を可視化されている点で学びが多い内容である。

最後に，私事で恐縮であるが，ここ最近，保育所等訪問支援事業を開始する事業所が増え，その事業所よりコンサルテーションに関する研修依頼を受けることが増えてきた。そんな中で，参考図書を求められたときに，紹介できる書籍がほとんどなく困っていた。本書は，OT 以外の関連職種が読んでも理解し実践できる内容であり，手探りで行われているコンサルテーション支援を言語化されている点で画期的である。本書が活用され，地域で活躍できる OT が増えることを願っている。

〔 A5 判 164 頁 2,800 円 + 税 〕
三輪書店 刊
☎ 03-6801-8357